

2022



ACT JAPAN

年次ミーティング

論より証拠！データと語ろうACTの実践と研究

< 第2号通信 >

2023年1月 配信

01 大会概要

日時・開催方法

日時：

2023年3月18日（土）・19日（日）

開催方法：

ハイブリット開催（対面/オンライン）

◇会場 [対面]=早稲田大学

早稲田キャンパス14号館

（東京都新宿区西早稲田1-6）

◆オンライン=Zoom ウェビナー（予定）

参加費

会員（会場：対面）	無料
会員（オンライン）	無料
非会員（会場：対面）	4,000円
非会員（オンライン）	4,000円
学生（会場：対面）	無料
学生（オンライン）	無料

※全員申し込みは必要になります

※会員区分でのお申し込みには、今年度の学会年会費の納入が必要です

参加申込

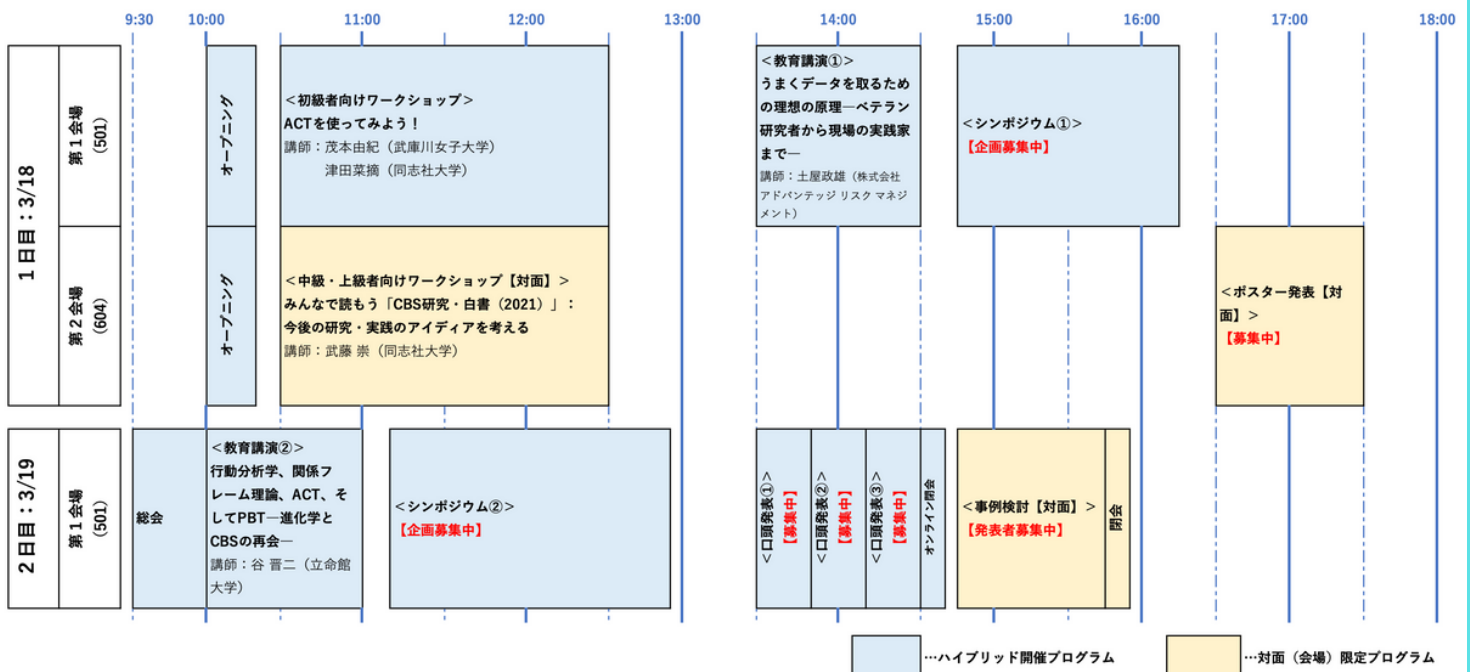
■ Peatixよりweb申込をお願いします
<https://actjapan-mtg2022.peatix.com>



※参加申込はこちらから

02

プログラム（予定）



<ハイブリッド>

- 初級者向けワークショップ
「ACTを使ってみよう！」
茂本由紀（武庫川女子大学）・津田菜摘（同志社大学）
- 教育講演①
「うまくデータを取るための理想の原理
：ベテラン研究者から現場の実践家まで」
土屋政雄（株）アドバンテッジリスク マネジメント）
- 教育講演②
「行動分析学、関係フレーム理論、ACT、
そしてPBT：進化学とCBSの再会」
谷 晋二（立命館大学）
- シンポジウム **【企画募集中】**
- 口頭発表（学術発表/情報交換） **【募集中】**

*ハイブリッドプログラムはオンラインで参加できます

<会場（対面）限定>

- 中級・上級者向けワークショップ
「みんなで読もう“CBS研究・白書
（2021）”：今後の研究・実践の
アイデアを考える」
武藤 崇（同志社大学）
- 事例検討 **【募集中】**
- ポスター発表（学術発表/情報交換）
【募集中】

* W.S./教育講演の詳細は2ページ後！



※参加申込はこちらから

03

演題募集/発表申込

※絶賛募集中※

自主シンポジウム : ~2023年~~4月15日(日)~~

1月31日(火)

↑延長しました↑

事例発表・口頭発表 : ~2023年1月31日(火)

ポスター発表 : ~2023年2月12日(日)

次ページの申込要領をご確認の上webから申し込みください

発表申込 →



<https://forms.gle/awQSma8zAVtuFAec7>

04 申込要領

自主シンポジウム

自主シンポジウムは90分枠です。企画者は ACT Japan の会員に限ります。ハイブリッド（対面/オンライン）で実施しますので、登壇者は会場（対面）参加でもオンライン参加でも、どちらでも可能です。自主シンポジウムの企画を申し込む際は、以下の内容をご作成の上web申込をお願いいたします。応募多数の場合は、大会準備委員会による審査によって採否を決定いたします。

- (1) 自主シンポジウムの企画名
- (2) 企画者、司会者、話題提供者、指定討論者
(それぞれの氏名、所属、会員/非会員)
- (3) 800字以内の企画概要

※オンライン配信もあるため事例発表は不可

事例発表

対面事例検討会の事例発表者を募集します。発表者は ACT Japan の会員に限ります。会場（対面）での発表のみとなります。以下の内容をご確認のうえ、web申込をお願いします。

(1) ACT に基づく個人セッションか、集団による介入かは問いません。他の学会および学会誌等で公表したものでかまいません。

(2) クライアントおよび所属機関から発表同意が得られているなど、一般的な倫理的手続きを経ている必要があります。さらに、クライアントの希望に合わせて必要ならば個人情報に関する映像や音声を消去・加工するなど、可能な限り個人情報の保護に努めてください。場合によっては、発表をご辞退いただくこともございますので、予めご了承くださいませようお願いします。

(3) 事例検討は、発表時間は30分、質疑応答、ディスカッションの時間は30分程度です。

(4) 発表の応募については、事務局により選考させていただきます。

※web申込とは別に、発表内容の概要（800字以内）をご送付いただきます。詳細はweb申込画面でご確認ください。

口頭発表

口頭発表は、発表15分・質疑応答5分の20分枠です。発表者は ACT Japan の会員に限ります。ハイブリッド（対面/オンライン）で実施しますので、発表者は会場（対面）参加でもオンライン参加でも、どちらでも可能です。口頭発表には「学術発表」と「情報交換」の2タイプあります（※1）。口頭発表を申し込む際は、以下の内容をご作成の上web申込をお願いいたします。

- (1) 口頭発表の演題名
- (2) 発表者氏名、所属、会員/非会員
- (3) 400字以内の要旨

※オンライン配信もあるため事例発表は不可

ポスター発表

ポスター発表は、会場（対面）で実施します。発表在籍時間は60分です。筆頭発表者は ACT Japan の会員に限ります。会場（対面）での発表のみとなります。ポスター発表には「学術発表」と「情報交換」の2タイプあります（※1）。対面のみのため、事例発表等も可能です。ポスター発表を申し込む際は、以下の内容をご作成の上web申込をお願いいたします。

- (1) ポスター発表の演題名
- (2) 筆頭発表者、共同発表者
(それぞれの氏名、所属、会員/非会員)
- (3) 400字以内の要旨

※1 口頭発表/ポスター発表の2タイプ

学術発表：原則として研究の目的・方法・結果・考察・引用文献などの項目に分けて記述し、「科学論文の要件」を満たした発表が該当します。ポスター発表の場合は、事例研究も可能です。演題の採否は、事前に提出された発表要旨に対する大会準備委員会による審査によって決定いたします。

情報交換：他学会等での発表済みの内容、研究計画、実践報告、作成したメタファー・エクササイズ・プログラムの紹介など、自由な内容の発表が該当します。以前別の学会で発表したが ACT Japan 会員からも意見を貰いたい、新しい研究のアイデアがありディスカッションしたい、面白い情報/アイデアを持っているので披露したいなど、自由な形式にてご発表いただけます。情報交換での発表の場合は、研究業績とはなりませんのでご注意ください。

※絶賛大募集中※

発表申込はこちらから→



<https://forms.gle/awQSma8zAVtuFAec7>

ワークショップ・教育講演の概要

中級・上級者向けワークショップ (3/18 Sat 10:30-12:30【対面】)

みんなで読もう「CBS研究・白書(2021)」

：今後の研究・実践のアイデアを考える

講師：

武藤 崇 (同志社大学)

概要：

文脈的行動科学会の「CBS研究に関する戦略と戦術」検討委員会による「白書」(Hayes et al., 2021)が、2021年3月(約1年前)に周知されました。そして、その内容が、学会誌であるJCBSのオープン・アクセス論文として掲載されました。つまり、ACT、RFT、Prosocialの研究や実践を本格的になさっている方には「必読論文」です。

そこで、本WS(中級・上級者向け)では、この論文を逐次参照しながら、参加者間でその内容を討論し、今後の日本における研究・実践のアイデアの「種(シーズ)」を考えることを目的とします。

特に、英語に苦手意識のある方が参加されることを期待しております。

【文献】

Hayes et al. (2021). Report of the ACBS Task Force on the strategies and tactics of contextual behavioral science research. *Journal of Contextual Behavioral Science*, 20, 172-183.

<https://doi.org/10.1016/j.jcbs.2021.03.007>

初級者向けワークショップ (3/18 Sat 10:30-12:30【ハイブリッド】)

ACTを使ってみよう！

講師：

茂本由紀 (武庫川女子大学) 津田菜摘 (同志社大学)

概要：

本ワークショップは、初心者の方がACTを体験的に学ぶワークショップです。本ワークショップでは、①ACTの概要を理解する、②メタファーやエクササイズを体験する、③自分自身に対してACTを適用するという3つの目標の達成を目指します。

①ACTの概要を理解するでは、ACTの中核となる概念について、例や簡単なワークを通して、理解してもらいます。また、ACTの6つのコア・プロセスについても簡単な講義を行います。

②メタファーやエクササイズを体験するでは、①で学習した内容をもとに、実際にメタファーやエクササイズを体験いただき、体験的に理解するとはどういうものかを学びます。

③自分自身に対してACTを適用するでは、クライアントに対し、ACTを使用する前に、まずは自身に対してACTを適用できるようになることを目指します。ワークショップ終了以降に自身に対してACTを適用してもらえるよう、ワークショップの最後に準備を行います。

教育講演① (3/18 Sat 13:30-14:30 【ハイブリッド】)

うまくデータを取るための理想の原理

ーベテラン研究者から現場の実践家までー

講師：

土屋政雄（株式会社 アドバンテッジ リスク マネジメント）

概要：

本講演では、実践家および研究者が日々の活動においてデータを取り、報告する際に役立つ基本的な進め方の情報提供を行う。講演のターゲットとして、ACTを活用し始めたばかりの実践家から、ACTに関する研究歴の長い研究者までを幅広く想定する。主にシングルケースデザインの観点から、データを取り効果検証をする際の初学者向けの解説が中心とはなるが、ACTの実践と研究は常に文脈的行動科学（CBS）の流れの中にあることを意識することが求められるため、現時点においてCBSコミュニティが目指すデータ取得の最高の理想形（例：Hayes et al., 2021）とは何かを踏まえた上で解説を行う。加えてシングルケースデザイン自体に求められる報告ガイドライン（SCRIBE: Tate et al., 2016）等も参照しながら、より望ましいデータの取り方やまとめ方を解説し、多様な聴衆における知識のアップデートを目指す。

教育講演② (3/19 Sun 10:00-11:00 【ハイブリッド】)

行動分析学、関係フレーム理論、ACT、そしてPBTー進化学とCBSの再会ー

講師：

谷 晋二（立命館大学）

概要：

文脈的行動主義という哲学にルーツを持つ認知行動療法には、CFTや臨床行動分析、ABA、FAPなどがあり、文脈的行動科学(CBS)としてまとめられてきました。プロセスベースド・セラピー（PBT）は、CBSの専門家だけでなく、その他の行動的な心理療法の専門家や異なる領域の専門家のコンシリエンスを高めようという目的で作られた新しいモデルとして登場しました。この講演では、動物の基本的な行動の原理、人にユニークな行動の原理、それを臨床的に用いていくときの課題、そしてPBTのアイデア、特に進化学的な視点について、整理していきます。スキナーは、人の行動が生存的随伴性、オペラント随伴性、文化・社会的随伴性の3つの随伴性のモザイクで出来上がっていると分析しています。あるクライアントの行動を考えると、3つの随伴性が複雑に関連しあっています。そのダイナミックな関連性を描くモデルとして、PBTは古くて新しい視点を我々に提供してくれています。

*ハイブリッドプログラムはオンラインでも参加できますが、対面プログラムは会場での参加が必要になります。

参加申込

■ Peatixよりweb申込をお願いします
<https://actjapan-mtg2022.peatix.com>



※参加申込はこちらから

2022



ACT JAPAN

STAFF

事務局長	井上和哉（早稲田大学）
準備委員	岩澤直子（早稲田大学大学院） 小口真奈（早稲田大学大学院） 姜 来娜（早稲田大学大学院）
開催責任者	大月 友（早稲田大学）

お問合せ：ACT JAPAN年次ミーティング2022運営事務局

actjapan2022meeting@gmail.com